

投票に關する物的證據に依る事實無き以上、市役所の帳簿を信頼するより外なしとして、民憲黨本君の所謂再調査に反對したのであつた。

嗚々!!!醜態、非人格、恐水病的彼等の態度を見よ!

堂本君は「こんな調査は當にならぬ、恐らく後で君等が偽造したのであらう」と放言して、鈴木庶務課長を憤激せしめて居る。吾等は鈴木氏に對しては、勿論何等の好意をも感ぜず、否、分區制問題當時公新會の走狗となり盛に同案の認可に狂奔せられたれば寧ろ悪感情をさへ持つものであるが、苟くも市會議員にして、刑法上の大罪たる公文書偽造云々の首辭を放言して憚らざるが如き態度は吾人の決して執らざるどころである。

而も堂本君は「三區四區の分はどうでもよいが二區の分だけ澤井君がもう三票あれば當選出来たのだからどうでもどうでも再調査せねばならぬ」と必死になつてわめきたてて居る。

吾等は此の問題は再調査の必要なしと認定したのであるが、假に百歩を譲り、否、民憲黨の立場をとつて再調査の必要ありと思惟するのであれば、市民の疑惑を解き且つは選挙界を明るくする上から及び市民の公僕としての責任から、二區同様三區も四區も、苟くも問題の發生して居るところ總てに亘つて再調査を力説するが市會議員として當然のやり方なりと信ずる。然るに、斯くせずして徒らに自黨本位に、三區四區——それも問題の性質は二區と全然同じものだ——は問題に非ず、澤井君がもう三票で當選するから二區だけの再調査をと衆人環視の中で放言するに到つては如何に鐵面皮で有名な彼等とは言へ、其の醜態破廉恥、我利我利定に言語に絶すると言はねばならぬ。吾等は斯くの如き態度を平氣で執る者が八幡十三萬市民の代表となり得たことを衷心から悲しみとするものである。

彼等の所謂正義と無産運動の正体を觀よ!民憲黨!それも極く一部の幹部だけだ、黨員大衆ではない——に都合の好いことが正義だ。而も彼等は演説會に於て口を揃へて「自分等は澤井君があつて三票で上るからとて言ふのではない。無産階級として及び普選の眞精神に照して明るき選挙を欲するから再調査を要求したので。それに社民は自分等を裏切つて公新會に合流して居る。是れ明らかに階級的裏切だ。吾等は公新會と戦ふ前に先づ社民と果敢なる闘争をせねばならぬ」と澤井君を問題にせずなどと、よくも大駄法螺が吹けたものだ彼等の輝ける黨士堂本は何といつたか?白を黒と云ひまくる惡すれした度胸だけは大了ものだ。更らに吾等が公新會と合流したといふが、それは結果からさうなつただけであつて、吾等の市會議員が再調査の不必要を唱へたのは、全然社會民衆黨独自の立場からであるのだ。

今一つ憤慨して居る民衆は「社民を民衆に反對した。その民衆は階級的裏切だ」といふのを、民憲黨に反對すれば何故それが階級的裏切りになるのか?

八幡の民衆黨と日本の社民黨と何れがよく無産階級解放のために眞に實力ある戦を戦つて居るか?

要之斯くの如き背徳、沒義道こそ彼等の正体である。果敢なる階級闘争は正義を背景とし、無産階級道徳を高調しつゝ天人俱に認容する堅固にして善美なる良心を以てするに非ざれば、斷じて不可能だ。諸君にして若し勇敢なる闘争を展開せんとするの殊勝な意思あればその闘争はよろしく土佐犬的であらねばならぬ。斷じて今日の如き狂犬的であつてはならぬ。

本年一月の縣議補欠戦に於ける嘉穂での階級的裏切、全しく門司での醜態更らには四月の、同じ陣營内に在りながら大衆黨嘉穂支部からの排斥等々、擧げ來れば、封建的、地方的、野心家集團的、似而無産黨民憲黨の罪業は盡きない。

親愛なる八幡勤勞無産大衆よ、希くは彼等の面に媚びを作り腹に針を藏する毒牙的惡宣傳を極力警戒せられよ!民憲黨々員大衆諸君よ一部幹部の醜類を清算せられよ。さうすることのみが無産黨としての實業を生かす唯一の路だからだ。

市會に於ける今後の吾等の態度は、彼等にして前非を悔ひ改め進んで共同戦線を求め來る場合を別として然らざる限り、彼等の階級道徳的裏切無産階級的良心の缺陥は過去數年間其のやり方が之れを証明して居るが故に、自ら求めて彼等と提携することなく社會民衆黨独自の立場に起つて勤勞無産市民の要求を戦ひ同時に公新會の打倒のため勇往邁進することを茲に力強く聲明するものである。

昭和四年五月二十日

社會民衆黨八幡支部